

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	KJ383871000281
事業所名 (ユニット名)	グループホーム ユニットいよ A 棟
記入者(管理者) 氏名	西岡 祥太
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社理念 悔いのないお世話をさせていただきます。 ・ケア理念 1.柔らかな言葉 2.温かい雰囲気 3.安心できる居場所 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>目標① 利用者様、職員の体調を管理し、感染予防を徹底する。コロナ感染症の予防を徹底し、スタッフ出勤時はマスクを付け直し、現場に入っている。概ね、2時間毎の換気と、午前・午後2回、アルコールでの消毒を行っている。定期的に、全スタッフ対象に感染症の勉強会・実技演習を行って知識を養っています。</p> <p>目標② 日常的に外出支援を行い、気分転換を図る。 コロナ感染症の対策を行いながら、近場でドライブを楽しんだり、春のお花見を実施した。日常的には、天気の良い日に、屋上上がったて海を見ながら日光浴を楽しんでいる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から近く、沿岸部から近い場所に立地する事業所には、母体クリニックが併設されているほか、屋上から五色浜の松並木や瀬戸内海を一望することができる。コロナ禍において、事業所には面会や外出の制限が設けられているが、感染状況を見計らいながら、五色浜公園や近隣のコスモス畑へ花見に出かけたり、屋上に出て、海を眺めながら外気浴や飼っている犬と触れ合ったり、季節の旬の野菜の世話をするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、ガラス越しやパーテーション越しの家族との面会に対応するとともに、タブレットを活用して、オンラインでの面会に対応することもある。職員は、事業所理念を念頭に置き、利用者目線を合わせて、明るく温かい言葉づかいで会話することを心がけ、穏やかで安心できる居場所に繋がっている。管理者は、職員に対して明るく声をかけ、支援に対する職員の提案を積極的に取り入れることで、優しい気持ちを持ちながら、利用者向き合うことができるよう努めている。事業所では犬や亀、メダカが飼育され、利用者に癒しや楽しみのある生活にも繋がっている。さらに、ミーティングなどに職員が参加しやすいように、オンライン機能を活用して参加できるよう工夫が行われ、全ての職員が参加して利用者の暮らしの様子を振り返りができるように努めたり、看取り支援の後には、支援の振り返りと職員のグリーフケアに取り組んだりするなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。加えて、管理者を中心に、全ての職員が一丸となり、心ある支援のもとで、利用者笑顔あふれる時間が多く見られる。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者様、家族様の声をしっかりと聴きとり希望や志向を把握している。また、家族様面会時等で様子を伝えている。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族様などから、本人様の若い頃・元気な頃の生活歴を聞き、情報把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	特に、入居時や面会時は、家族様とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を聞き取りをするともに、意識して大事にしたいことや大切にしている物を見落とさないよう努めている。また、利用者毎に担当職員を配置して、細やかな視点で利用者の思いなどを把握する体制を整えている。さらに、利用者毎の情報共有ノートが作成され、新たに把握した意向は一人ひとりのノートに詳しく記録を残すとともに、職員間で共有をしている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	生活歴をお聞きしたり、会話の中から見つけた事をアセスメントにまとめている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人様の言葉だけではなく、動きや様子、何気ない表情にも注意し、隠れたニーズに気付けるよう注意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の面談から、本人・家族・ケアマネ等に生活歴や趣味嗜好をお聞きしている。お聞きしたことをアセスメントし、各スタッフに確認してもらっている。入居後も、本人や家族からの関わりの中でお聞きしている。	/	/	◎	入居前に、管理者が病院や自宅などを訪問して、利用者や家族と面談を行い、基本情報や生活歴、暮らしの現状などの聞き取りをしている。病院から入居する場合には、病院の地域連携室の担当者から利用者の生活状況や入院までの経緯などの聞き取りやサマリーなどの提供を受けている。また、他施設や自宅から入居する場合には、施設や介護サービス事業所の関係者、介護支援専門員から、利用者の様子や現状などの情報を聞くこともある。さらに、収集した情報は、利用者一人ひとりの情報共有ノートにまとめて、入居前にユニットの職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日頃からの関わりを通し、出来る事、出来ない事を見極め、本人や家族の意向も踏まえて、生活に取り入れ、希望者には生活リハビリを提案している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	利用者の方それぞれに、生活リズムの違いもあるように、可能な範囲で、それぞれのリズムを尊重し、他者に合わせるところとメリハリをつけるよう注意している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントだけでなく、日々の関わりの中から出てくる新しい発見も、申し送り・カンファレンス時にスタッフ間で共有。暮らしの中に取り入れている。	/	/	○	利用者一人ひとりの情報共有ノートがあり、日々の利用者の様子のほか、職員の気づいた変化や発見したことを記載する生活面の欄を設け、得られた情報を活用しながら、職員間で利用者により良く暮らすための検討をしている。また、日頃から管理者等は、全ての職員が利用者の些細な変化を見逃さないよう意識づけをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日頃からの生活の様子を元に、本人・家族の希望を踏まえたアセスメントを行い、多職種でカンファレンスで課題の確認を行っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の心身の状態に関係なく、その人らしさを少しでも見いだせるよう検討している。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族の想い、普段の生活の様子やADL向上へ向けた提案、好きな事や興味のある事、様々な事を目を向けながら優先順位も検討、プラン作成している。	○	/	○	事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師などの関係者の指示やアドバイスを踏まえて、アセスメント情報や得られた情報をもとに、カンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者毎の担当職員が、日々の様子が記録された情報共有ノートなどの確認を行い、利用者の現状を把握していることもあり、カンファレンスの際には、必ず意見を伝えるとともに、参加できない職員には、事前に気づきなどのメモを提出してもらっている。さらに、利用者や家族の意見が反映された計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	寝たきりになり、終末期に入っても、本人が望む生活や、家族との関わり・時間・繋がりを大切にもらえるようなプラン・サポートする事を心掛けている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	新型コロナ対策で、地域の人たちの協力体制は実現できないが、例年は、運営推進会議・秋祭り、運動会を設け交流機会を作っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者様個人のファイルにケアプランを保管し、確認出来るようにしている。ケアカンファレンス時に再確認し共有している。	/	/	○	個別の介護記録の様式に、計画の内容が転記され、職員は計画内容に沿って、日々のサービスの実施の有無などが確認できるようになっている。また、利用者毎の担当職員を中心に、介護記録や個別の情報共有ノートに、利用者の状態の変化や言動などの詳細な記録が残されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	定期的なケアカンファレンス時に実施状況を話し合い、確認しながら今後の計画・支援内容に繋げている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	概ね半年毎に、アセスメントを更新、日勤スタッフがケアカンファレンスに参加、プランの見直しをしている。当日参加できないスタッフにも会議録やメモ書き等で、気付きや変更点伝える。	/	/	◎	入居後、初回の介護計画は、3か月で見直しをするほか、それ以降は、6か月に1回を基本として見直しをしている。新たな利用者や家族の要望のほか、変化がない場合にも、利用者毎の担当職員が介護記録や個別の情報共有ノートなどの情報をもとに、月1回モニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、ケアカンファレンスの中で報告し、職員間の共有と支援の振り返りに繋げている。また、利用者の状態が変化した場合には、必ず家族への報告と医師への相談を行い、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当スタッフが、3ヶ月1回程度、モニタリングを行い現状の把握を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	急な入院、状態の変化が生じた場合は、家族に報告しながら新たな計画を作成している。出来上がった計画は、ご家族に確認いただき、署名頂いている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	概ね毎月一回、スタッフ会議を開催し、問題の検討・解決をしている。緊急案件に関しては、毎朝の申し送り時話し合っている。	/	/	◎	月1回ミーティングを実施して、職員間で話し合いをしている。会議に、多くの職員が参加できるように、開催日時を事前に決めて周知するとともに、開催日に出動していない職員も、オンライン機能を活用して、会議に参加できるような体制を整えている。また、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で必ずミーティングを実施するとともに、翌日に再度ミーティングを行い、参加していない職員にも経過報告を行い、伝達に漏れがないよう努めている。さらに、終了後には会議録の作成を行い、参加していない職員には確認してもらうとともに、職員はいつでも記録を確認できるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	新型コロナウイルス対策を行い、午後の落ち着いた時間帯に会議を開催している。スタッフ一人回は発言する機会を作っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	新型コロナウイルス対策を行いながら、日勤スタッフで会議開催している。参加できないスタッフに関しては、あらかじめ意見・質問を聴き、会議で検討。記録はファイル保管し、スタッフいつでも閲覧できるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎朝、始業時に日勤者全員が事務所又は事務所横に集まり、当日リーダーが申し送り事項を読み上げている。午後から出勤してきたスタッフにも重要事項を伝えている。	○	/	◎	申し送りノートを活用して、申し送りが行われ、出勤時に職員は必ず確認をしている。また、日々の朝礼時には、伝達事項等の再確認が行われ、リーダーが申し送りノートの伝達事項を読み上げるなど、職員間で伝達漏れがないよう工夫されている。さらに、つぶやきノートがあり、職員は自由に気になることなどを記載できるようになっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望が有る利用者については、出来るだけ叶える努力をしている。ただ、認知症の為に希望が言えない利用者も多く、不十分な点も有る。	/	/	/	入浴時の着替えや受診時の洋服、おやつ、飲み物など、日常生活の様々な場面で、職員は利用者を選択してもらい、自己決定できるよう支援している。また、利用者が輝いていた時代のことを思い出しながら、楽しみのある生活が送れるように、職員は利用者一人ひとりの趣味や特技、以前の職業、家族のことなどを把握して、好きな会話などを取り入れた支援が行われている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来る範囲で自己決定する機会や場を作っているが、自己決定できない利用者も数名おられる。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の希望やベースを尊重している。全介助の利用者も多く、希望を確認することが難しい事も多い。出来るだけ、ゆったりとした時間を大切にしている。特に食事は、本人の希望をふまえた介助を心掛けている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	コミュニケーションを大切にしている。笑顔が頼られるような雰囲気作りしている。会話の中に、昔懐かしい話題を織り混ぜて、傾聴し感謝の気持ちを大切にしている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や声から、いつもと変わらない事を観察し、温かい雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう気配りをしている。声かけを行った際の表情や反応を読み取ることも心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	スタッフは理念に沿って行動し、常に利用者様を大切に思ふ事を心掛けている。新人スタッフには、新卒・中途に関わらず、法人として職員研修プログラムにより、相手を尊重して尊重して支援することを学ぶ機会を作っている。	○	○	◎	事業所のケア理念の一つに、「柔らかい言葉」を掲げて、職員は意識した声かけをするとともに、定期的に、利用者様を尊重する関わり方などの内部研修が行われている。また、薬を塗る際には、別室で対応したり、周りの利用者には気づかれないよう、さりげない声かけをしてトイレ誘導をしたりするなど、利用者の羞恥心に配慮した支援が行われている。さらに、居室へ入室する際には、ノックと声かけをしてから入室するとともに、退出時には、「〇〇さん、用事があつたら言ってくださいね。また来ます」などと伝えている。加えて、不在時にも、事前に利用者様に、「〇〇をしますが、私がしていいですか」などの声をかけて、確認の上で入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴介助・排泄介助時は、バスタオル、膝掛けを活用している。車いす対応の場合、入り口のカーテンを閉めて、プライバシーを配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室時には、必ずノックをし、本人様に了解を得てから入室している。認知症でわからない利用者に対しては同様にノックし訪室している。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	必ず、入社時に、仮に退社した後も個人情報を守るように、誓約書を交わし、新人職員への職員研修プログラムでも個人情報を漏洩しないよう、具体例を挙げて予防に取り組んでいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者様に洗濯物たたみや、お膳拭きなどの軽作業をしていただいたり、昔の話や風習を教えてもらったりすることで、年長者ならではの考え方を教えて頂いている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、行動や表情などの観察を行い、日々の生活の中でストレスを溜めていないかなどの確認をしている。不快な利用者の気持ちに気づいた場合には、職員は配席などを考慮したり、事業所の屋上に出て気分転換を図ったりするなど、未然のトラブル防止に努めている。また、利用者同士が言い合いになった場合には、他の利用者が間を取り持つことで、利用者の気持ちが和むこともある。さらに、利用者同士が励まし合ったり、車いすを押すのを手伝ったりすることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	毎日、顔を合わせる利用者様同士の繋がりを大切に考えている。また、同年代だから分りある事が有ることに注目し、スムーズな掛け合いが出来るようサポートしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	スタッフは必ず、一人ひとり声かけ、利用者様同士も人間関係がうまくいくように支援している。少しのズレから口論やトラブルに発展しないように、スタッフが間に入り、取り持っている。必要に応じ、席替えを行ったりし、全体のバランスも考慮したりしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	お互いの想いを大切にし、必要な場合、お互いが納得が出来るようにサポートしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族様より情報を頂き、把握。本人を取り巻く人間関係を大切にしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在はコロナ禍のため外出の機会はない。一階玄関のドア越しに距離をおいて面会を再開している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	△ コロナウイルス感染防止の為、外出するのは難しいが、天気の良い日には屋上に日光浴に行けるよう心掛けている。感染対策前は、季節を感じるようドライブに誘っていた。	△	x	△	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられ、外出できる機会が激減している。感染状況を見計らいながら、五色浜公園へお花見に出かけたり、近隣のコスモス畑へ出かけて、花を觀賞したりするなど、季節を感じられるような外出支援が行われている。日々の外出支援はできておらず、事業所では屋上に出て、海を眺めながら外気浴をしたり、飼っている犬と触れ合ったり、季節の旬の野菜を植えて、水やりや草引きなどの世話をするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。コロナ禍の収束後には、利用者の要望に応じた外出支援が行われることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	x	現在、コロナウイルス感染の為、中止している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	朝のミーティングや内部研修を通して、認知症の理解を深め、改善策を共有し、チームで考え対応するようにしている。	/	/	/	職員は外部研修等で、利用者の認知症状などを学び、理解をしている。また、日々の健康体操やストレッチのほか、洗濯物たたみや自分でトイレに行くなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、入浴時の洗身や食事など、利用者ができることやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りや、できない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	認知機能や身体状況を理解し、日常生活の中で維持、向上が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来そうな利用者には洗濯たたみ、お盆拭きなど、ホームでの役割を感じてもらえるよう配慮している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメント情報をもとに、個々の生活歴を把握し、本人らしく生活できるよう努めている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭き、テーブル拭きなど、職員は利用者一人ひとりに役割を担ってもらい、手伝ってもらった場合には、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。新聞を置くことを日課としている利用者もおり、いつも喜んで行ってくれている。また、カラオケが好きな利用者が、「〇ページを今から歌います」などのリーダーシップを発揮する場面も見られる。中には、玉ねぎやじゃがいもの皮むき、食後のお盆拭きなどの役割を担っている利用者もいる。さらに、職員は利用者を支えながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるような支援に努めており、事業所内には利用者や職員の明るい笑顔が見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	認知症のレベルに応じた生活支援を行っている。コミュニケーションをとりながら発語を促し、穏やかに過ごして頂いている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自己決定できる利用者には服を選んで頂いている。又、家族様から好みの服がないか伺っている。				起床時に、自分で着がえて、鏡を使用して、整容を整えることのできる利用者もいる。男性利用者は、電気シェイバーを使用して髭剃りを行い、職員は剃り残しなどのサポートをしている。また、服装の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローするとともに、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。利用者の食べこぼしが見られた場合には、職員がさりげなく拾ったり、口の周りをきれいに拭きとったりしている。さらに、履物などの準備は家族に依頼しているものの、配慮が必要な家族には、事業所で買い物支援などを代行する場合もある。加えて、重度の利用者には、家族からの情報をもとに、訪問看護師等に協力してもらい、整容を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人様、家族様と相談して支援している。必要なものがあれば、依頼し持ってきて頂いている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者様の意思を尊重し、気持ちにそって支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	△	コロナウイルス感染防止の為、外出は中止しているが、季節に合わせた服装を用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さりげなく直したり、衣類が汚れている場合は、エプロンではなくタオルを胸にかけて頂いている。汚れの酷い場合は、すぐさま更衣するよう支援する。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	現在、コロナウイルス感染防止の為、出張理容を依頼している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族様からの情報により、本人が好むであろう物を考えたり、相談し支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べるだけでなく、見た目なども工夫。意欲を満たす事も加え、食べる楽しみを味わえるよう支援している。				事業所では、業者の宅配サービスを利用して、栄養バランスの取れた献立の食材が配達され、利用者に野菜の皮むきやお盆拭き、テーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、一括してB棟のキッチンで職員が調理をしている。職員は利用者から、好きなメニューや嫌いな物などの聞き取りを行い、アレルギーなどを含めて食べられない食材がある場合には、業者に伝えて代替の食材を用意してもらっている。行事食の特別メニューを業者に用意してもらうこともある。栄養バランスは、法人の栄養士に相談するとともに、要望や相談結果に合わせて、食事の担当職員から業者に伝えて、献立などの調整に対応してもらうこともできている。使用する食器は、入居時に自宅から持参してもらい、馴染みの物を使い続けることもできるが、利用者の状態に応じて、事業所で用意した使いやすい物を使用することもできる。食事の際に、職員は利用者と同じ食事を摂ることもできているが、感染対策で見守りやサポートを行い、時間をずらして、別室で食事をしている。また、重度の利用者には、職員が食事のメニューを伝えて、少しでも食事が楽しい時間となるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	外部業者発注委託の為、あまり行っていない。お膳拭きなどの軽作業を出来る範囲で行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	新型コロナ感染症予防の為、現在は行っていない。利用者の希望を聞きながら、配慮したいと考えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギーの有無を把握し対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	外部業者発注委託の為、献立を利用している。行事食は、利用者の好きな物を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食欲が増大するよう、見た目を大事にし、食べやすい様に盛り付けなどを工夫している。食器なども使いやすいよう、安全なもので提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様の状態に合わせて、本人に合ったものを提供している。状態により、安全なものに変更することも有るが、入居当初は、使い慣れた箸と茶碗を持参をお願いしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助が必要な利用者様が居たり、新型コロナ感染症の予防の為、スタッフが一緒になって食べるのは難しい。一人ひとりの状況を把握し、テーブル上にティッシュを配置したり、食べこぼし防止の為、前掛けにタオルを使用したりしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	利用者様の状況に合わせた食事を提供している。無理の無い範囲で一緒に食べられるよう配慮している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者様の一人一人に合わせた食事量・水分摂取量を確保出来るように配慮している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	連携看護師や、主治医と相談しながら、栄養セットや補助食品の活用しながら提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外部委託業者の献立を利用している。現在、新型コロナ感染症の影響で中止しているが、通常は定期的に外部業者を招いて献立・調理方法、食材について意見交換を行っている。当社の栄養士資格を持つスタッフを中心に話し合いを行っている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	感染防止委員会のアドバイスを参考に、調理担当スタッフが責任を持って対応している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食後は必ず、口腔ケアを実施している。うがいが出来ない利用者様は、口腔用スポンジを使用し、食物残渣が無いようにケアしている。				歯科医等から、指示やアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、口腔ケアマネジメントの計画を作成し、事業所では、口腔ケアを重視した支援に取り組んでいる。さらに、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、見守りやサポートをしている。加えて、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、職員は全ての利用者の口腔内を確認するとともに、悩みや異常などの細やかな聞き取りをしている。定期的に、利用者は歯科医の訪問診療や往診を受けることもできている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	義歯使用している利用者様は、毎食後、洗浄して洗浄剤で消毒している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科診療の際、正しい口腔ケアの方法を教えてください、実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後、歯ブラシで洗浄し、夕食後は洗浄剤に浸け置きしている。介助が必要な利用者様には、清潔を保てるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	出来る利用者様は、歯磨き、うがい等なるべく自分でして頂き、出来ない利用者様には口腔用スポンジや、口腔シートを使用して清潔を保っている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで排泄が可能な利用者様は出来るだけトイレ誘導で排泄を促している。				事業所では、トイレでの排泄を基本と考えて、支援をしている。職員は、利用者一人ひとりの排泄の状況を記録するとともに、個々の排泄パターンの把握や共有をして、さりげない声かけやトイレ誘導が行われ、利用者の失敗が減ることで、利用者の自信にも繋がっている。中には、職員間で適切な排泄用品の使用を話し合うことで、パッドの大きさが変更となったり、紙パンツなどの排泄用品の使用頻度が減少した利用者もいる。また、利用者の排泄用品を使用する違和感が取り除かれ、費用面での負担軽減などにも繋がりが、家族から喜ばれている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	毎朝、排便チェックを行った上で、便秘薬の調整。健康の維持のためにも、便秘にならないように支援している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	時間を見て、定期的なトイレ誘導を行う他、不穏気味になったりする様子から、排便のタイミングを読み取る工夫をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	トイレ内での動作の安全性を確認した上で、トイレ誘導を行っている。状態によって、安全を確保出来ない時は、オムツの使用の選択もある。しかし、出来るだけトイレでの排泄を促している。また、使用しているパッドなどは、排泄頻度、吸収量などからスタッフ間で相談し随時、調整している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量・水分量、運動量、服薬内容・排泄状況等を記録。連携看護師・主治医とも相談し、対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間・タイミングを確認、トイレの声かけを行っている。一人一人状況に合わせて、温かな声かけを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日勤帯・夜勤帯で使用するオムツは本人の希望を確認し、スタッフ間でも話し合いを行いながら調整、試している。しかし、オムツは業者に一括での発注を行っているため、必ずしも排泄状況に合った物でない可能性も有る。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その都度、利用者様の状態・排泄状況をふまえながら、スタッフ間で相談、紙パンツ・オムツを使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎朝の水分補給時に、状況に合わせて牛乳を摂取してもらったり、レクリエーションで体操を行い、少しでも身体を動かせるようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	時間や曜日等は職員側で決めてしまっているが、その分、お湯の温度やお風呂に入る時間は利用者の好みに合わせて支援している。	◎		○	週2回を基本として、利用者は午前時間帯を中心に、入浴をすることができる。また、利用者の希望に応じて、入浴回数の増や湯の温度、入浴順、湯船に浸かる時間など、職員は可能な範囲で、柔軟に対応をしている。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをせず、時間帯や日にちを変えた声かけなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を使用したり、会話が好きな利用者とは会話をしたりしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	ご自分でできる方は見守り、難しいところだけ声掛けし、また、時にさりげなく手伝っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否されることももちろんあるが、利用者によって声掛け、支援内容を工夫することで、笑顔で入浴して頂いている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルを測定し、ご本人に体調を確認してから入浴の可否を決めている。入浴後もスポーツドリンクを提供し、様子を見ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者の申し送り等を確認しながら、個々の状態把握している。	/	/	/	事業所では、日中に健康体操や歌謡曲に合せたストレッチをしたり、天気の良い日は屋上で日光浴をしたりするなど、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、睡眠導入剤を使用する場合には、医師に相談を行い、服薬の開始や継続、減薬などの報告をすとも、指示に沿った適切な薬の服用が行われている。事業所では、現在ほとんどの利用者が、夜間に良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	出来るだけ日中の活動量を増やし、レクリエーション等に参加して頂くよう声かけ支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜勤者からの申し送り等も参考にし、スタッフ、看護師・主治医と連携して支援している。主治医に相談するまでに、生活の中で出来ることを探したり、夜間の利用者様への声かけにも注意し、利用者様が安心して頂けるよう支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者さまによって、午前・午後で居室にて休憩出来るようになっている。ホールで過ごしている様子が疲れているようであれば、声掛けし心身を休めるようしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	○	自分で管理が出来る利用者様については、家族様から、携帯電話掛けて、連絡がとれるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	自分で出来る利用者様には促している。しかし、介助が必要な利用者様にはできていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自分で管理が出来る利用者様は、居室から好きな時間帯で連絡が出来るようしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず、本人様にお見せし、自分で電話が使用出来る利用者様は電話が出来るよう声かけ支援する。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	事業所のタブレットを活用し、お互いに顔を確認しながら、オンライン面会が利用出来るようになっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の大切さを理解しているが、トラブル防止の為、所持している利用者様はいない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	新型コロナ感染予防の為、外出はできていない。買い物先の理解を得るところまではできていないが、今の感染状況が落ち着いた後は検討したい。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在、利用者様で現金を所持している方はいない。本人様や家族様の希望・状況をふまえて、再度確認、検討していきたい。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要な物があれば、家族様に事前に確認・了承を得ている。実際に、購入する際も、家族様に連絡した上で立て替えている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現在、現金を預かっている利用者様はいない。家族様に管理方法の同意を頂いて、立替金として請求し了承を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族様から相談があれば、必ずお聞きし、必要に応じ事務局等にも確認しながら行っている。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族から出された要望には、状況を考慮しながら、可能な範囲で柔軟な対応をしている。コロナ禍以前は、日用品の買い物などに利用者と一緒に出かけることができていたが、現在は対応できない状況となっている。また、状況に応じて、職員は病院の同行支援などの対応を行い、家族から喜ばれている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	エレベーターホール周り、季節の花を植えたり、鮮やかに飾りつけをしている。	○	○	○	母体クリニックのある建物に、事業所は併設しており、近隣住民には馴染みのある建物となっている。玄関入り口を入ったエレベーターホールには、近隣の畑からいただいたコスモスが飾られ、気持ち良く来訪者を迎え入れてくれ、親しみやすい雰囲気が感じられた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールや廊下に利用者と一緒に作成した作品や行事の写真、季節の花を飾り、新聞や本、テレビのリモコンなどすぐに手が届くところに置いている。	○	○	○	共用フロアには、大きな模造紙に職員が描いた寅やかぼちゃ、松ぼっくりが飾られているほか、折り紙で作ったふどうやハロウインの作品が飾られ、利用者や来訪者は、時候や季節を感じられるようになっている。食事などを行う机の上には、職員が作成したパーテーションが置かれ、感染対策を講じている。また、ガーデニングが得意な職員が強みを活かして、トイレを含めて、事業所内の至る場所にコスモスなどの生花や観葉植物などが飾られている。さらに、カメラやメダカが飼育され、利用者は餌やりや鑑賞を楽しんでいる。加えて、建物の屋上にも出ることでもでき、利用者は海の景色が眺められるほか、ネギやブロッコリー、春菊、多肉植物など植えられ、利用者は成長を楽しみながら観察をしている。今年は、近隣で花火大会も開催され、利用者は壮大な眺めが見られ、大変喜んでいる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	定期的な換気と日々の掃除を行い、照明を明るくし、太陽の光はカーテンで調節している。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を生けたり、壁面は季節や行事ごとに替え、行事の作品も利用者と一緒に作成し、飾りつけをする。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	共用空間では自由に移動ができ、好きなことができるよう配慮している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	利用者の使い慣れた物、好みの物、写真や飾りを持ち込んでいただき、入居前と大差ない環境を作れるようにしている。	○	/	○	居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられている。利用者は使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができる。家族の写真や好きな犬のカレンダーなどを飾り、職員は安らぎのある快適な生活が送れるような空間づくりに努めている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室入り口には、了解を取ったうえでお名前を掲示し、トイレにもわかりやすく表示している。日付も大きい時の目めくりカレンダーを掲示している。	/	/	○	事業所では、トイレの表示を大きくしたり、居室の入り口に、「○○様のお部屋」と貼り出したりするなど、利用者が認識しやすいような工夫が行われている。また、廊下には手すりが設置され、歩行訓練などのリハビリに活用している利用者もいる。さらに、新聞や雑誌などが置かれ、利用者は自由に取れるようになっている。	
		b	利用者の活動意欲を醸発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞・本・雑誌・パズル・テレビのリモコンをすぐ手の届くところに置き、鉢植えや花瓶の花の世話や、掃除道具も自由にできるように置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	交通量の多い立地とコロナ禍という事もあり、1F玄関はオートロックになっている。気分転換にスタッフと屋上に上がったり、1階駐車場で喫茶店を開き、楽しんでいた工夫をしている。	x	x	△	事業所は道路に面しており、大型トラックなどの交通量が多く、利用者の安全を第一に考えて、1階にある玄関は施錠され、コロナ禍もあり、来訪者にはインターホンで対応している。また、外に出ようとする利用者の様子が見られた場合には、職員は利用者へ声をかけて話しを聞くとともに、一緒に屋上に出て、海の景色を眺めながら、新鮮な空気を吸ってもらい、気持ちを和らげるような対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室の入口は防犯の為、利用者様自身が施錠して方もいる。万が一や巡回時などは、マスターキーで解除し確認出来る体制がある。スタッフ、日頃から話し合い、確認している。	/	/	/		
(4) 健康を維持するための支援										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	勤務交代時の申し送りを確認し、日々更新される医療連携記録を読み、把握できるよう努めている。	/	/	/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル表や介護記録を確認し、小さな違和感でも変化があれば記録している。	/	/	/		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護職員5名、そのうち医療連携Nsが1名おり、24時間体制で対応している。適宜、医療機関とも連絡を取り、異常の発見につなげている。	/	/	/		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	医療連携記録を確認し、必要時主治医に相談して、各専門医への紹介などを行っている。	◎	/	/		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人やご家族の意向を聞き、できるだけその意向を尊重できるよう関わっている。	/	/	/		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要時、チーム内でカンファレンスを実施し、情報共有や相談をし、本人やご家族の意向に沿えるように努めている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、職員が必ず付き添い、病棟Nsに情報提供書を渡し、気になることは口頭で伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	適宜、地域連携室と連携を取り合い、早期に退院できるよう調整している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師が出動しているときは、小さな気づきもすぐに報告できており、入居者の異常の早期発見に繋がることができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が1名おり、必要時、夜間も電話相談・報告ができています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルサイン測定、スタッフからの相談・報告、また、主治医の定期的な訪問診療などで日々の健康維持に繋がっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	医療連携記録に服用する薬に変更等あれば記入しており、スタッフ全員が理解・把握できるよう努めているが、専門的なこともあり、全員には難しい。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬局の在宅医療管理指導に加え、服薬時の氏名確認もスタッフ2名がWチェックするよう徹底している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	常に内服内服を把握し、状態変化があれば、適宜主治医に報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居契約時、重度化した場合における(看取り)指針を家族へ説明している。状態に変化があれば、家族や主治医を交えてカンファレンスし、確認している。				
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態変化などあれば情報を共有し、必要機関と連携を図り、統一した方針を決定できるよう努めている。	◎	◎	法人・事業所として、「重度化した場合における(看取り)指針」が設けられ、入居時に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。協力医療機関との24時間体制の連携が確保され、母体クリニックが併設されていることもあり、利用者や家族には安心感がある。また、夜勤の職員も不安を抱えることなく、看取り介護等に対応することができる。さらに、利用者が重度化した場合には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。今年(令和4年)に入り、事業所では2名の看取り介護の経験をするともに、今回の看取り後には、看護師が主導で、職員の看取りの振り返りが行われ、次回の支援に繋がられるよう取り組みを行っている。加えて、振り返りでは、看取りをした利用者との思い出や望んでいた最期、看取りの不安などを全ての職員に記載して提出してもらい、集計した結果を話し合い、家族へ伝えるなど、職員のスキルアップにも繋がっている。	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者は常にスタッフの精神的な負担が大きくないか声をかけており、適切なケアができるように努めている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状況に合わせて、施設としてできる最善を尽くせるようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人や家族の意向に添い、主治医に伝え、よりよい医療や介護に繋げる体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	できるだけ普段から家族と聞き取りし、信頼関係を築けるようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	今は新型コロナウイルス感染症も含めて対策として、研修・実習を実施している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	医療連携看護師が中心となり、感染症対策マニュアルに応じ、スタッフが統一した予防策をとれるよう徹底している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	その時の最新の情報に合わせて、感染予防策を徹底し対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	現在は感染症予防のため、来棟者を最小限に絞っており、もし部屋に入る場合は、フェイスシールド・マスク・エプロンを着用してもらい、感染対策をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	生活動作を共にし、同じイベントを同じ目線で過ごすなど、日々の関わりの中で、信頼関係を築いている。	/	/	/	コロナ禍以前は、七夕や敬老会などに参加してもらい、家族同士が交流できる機会が設けられていたが、現在は開催を自粛している。管理者は、「新型コロナウイルス感染症の収束を見計らいながら、家族が参加できる行事を再開させたい」と考えている。また、ガラス越しやパーティション越しの家族との面会に対応するとともに、タブレットを活用して、オンラインでの面会に対応することもある。月1回発行している「ユニットいよ便り」には、お花見やコスモス畑の見学、七夕、100歳のお祝いなど行事が写真入りで報告されているほか、職員の人事異動や入退職の情報の掲載を行うなど、家族への周知が図られている。さらに、職員は訪問時や電話連絡時、手紙を活用して、家族に利用者の近況を伝えている。事業所では、LINEのSNS機能を活用して、写真の送付などの連絡を取り合う家族もおり、気軽に連絡や相談を行いやすい環境を整えるとともに、利用者の様子がより家族に伝わるような工夫が行われている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	現在、新型コロナウイルス感染防止の為、自粛している。	x	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、全家族様にホーム内の様子を写した写真を載せて「いよ便り」を発送している。また、タブレットを使用した連絡用アプリで、家族様に写真や動画を送り交流を図っている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族様の事を忘れず、変化が感じられる場合は、家族様の気持ちに寄り添って支援している。また、「家族に会いたい」と気持ち強く訴えれば、会話の機会を持ち、利用者様に安心して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	毎月送付している「いよ便り」について報告。電話や面会時にも必要な事をお伝えし、協力頂いている。	◎	/	◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	アセスメント情報をもとに、入居時の契約でリスクを説明し、入居後においても、状態によって起こり得るリスクを説明し、納得頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時に、スタッフから日頃の様子を伝え、家族には気になる事や想い・希望をお聞きしている。また、タブレットを活用し、気軽にコミュニケーションが取れている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時は、なるべく2名体制で説明を行っている。家族様には解るよう一つひとつ丁寧な説明を心掛けている。介護報酬改正時、消費税・物価変動で料金変更時などは、必ず、文書で説明、同意署名を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去になる場合の条件について詳細を説明している。本人希望時もあるが、事務所側の判断で退去になる場合についても、その条件を詳細に説明している。必要時は居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにも相談しながら対応する体制がある。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	コロナ禍ということもあり運営推進会として集まることはできていない。代わりに行事や各委員から頂いた意見などをまとめた資料を作って各委員に配布している。	/	○	/	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、利用者が地域住民との交流できる機会が激減している。コロナ禍以前は、ボランティアや中学生の職場体験を受け入れたり、利用者と一緒に幼稚園児と交流したり、地域の行事に参加するなどの交流を図ることもできていた。法人・事業所として、町内会に入会し、定期的な回覧板が回ってきている。日頃から、職員は近隣住民に気持ちの良い挨拶を心がけている。今年(令和4年)は、感染状況を見計らいながら介護サービス相談員を受け入れ、利用者の話しを聞いてもらうこともできた。コロナ禍の収束後は、継続されている地域との関係性を活かして、地域の中で利用者が少しでも多くの交流が図れるように、早期に活動が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあいや、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ禍以前は夏祭りに参加したり、事業所で祭りをして地域の方や子供たちと交流を行っていた。現在は、自粛している。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	傾聴やレクリエーションのボランティアだけでなく、防災訓練でも協力いただいている。現在は、感染対策の為自粛している。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	普段はあまりないが、行事についてや運営推進会議のお知らせをしたりしている。	/	/	/	
		e	近隣のひとと気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	避難訓練や運営推進会議、ボランティア等で来られた時に声を掛け合うなどしている。近所の方は、出勤・退勤時顔を合わすことがあれば挨拶している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	コロナ禍以前は、レクリエーションのボランティアや中学生たちの職場体験等で交流を行っていた。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	事業所主催の秋祭りでは、調理器具のレンタルやおにぎりどんどの注文をしていた。現在、感染症対策の為、実施出来ていない。今後、落ち着いて来たら検討していく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	コロナ禍に入ってから、会議で集まれているが、2か月に一度行政や地域の人にお便りという形でお知らせしている。	x	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が継続している。書面会議では、入居状況や行事報告をまとめた資料を送付するとともに、意見書を会議の参加メンバーに送付して、意見をもらうよう努めている。また、参加メンバーから出された意見と、事業所の対応コメントを記載した議事録を作成して、参加メンバーに再度送付を行い、会議の取組みへの理解促進に繋げている。会議の資料は、一部の家族への送付に留まっており、今後は全ての家族へ案内や資料の送付を行うなど、コロナ禍においても、家族に事業所の様子がより伝わるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後にも結果をご報告し、ご意見を頂いている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	ここ数年コロナの影響で集まれているが、ボランティアの方や消防署員、市議会議員さんにご参加いただいていた。また、古民家で開催した際は他のGHの職員さんとも交流をしていた。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念を一人一人が把握し、毎朝の申し送りでも唱和し、実践・継続できるよう取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	1Fや2Fのエレベーターホールには掲示し、見てもらえてるが利用者には十分に伝えられていないと思う。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	スタッフ一人一人の専門性の向上、スキルアップが利用者様への穏やかな支援に繋がることから、外部からの研修誘致、各スタッフが研修参加出来るよう予算も計上している。	/	/	/	代表者は、定期的に事業所に来訪して、職員や利用者へ優しい声かけをするとともに、年2回職員との個別面談を行い、職員の意見や要望などを聞き、働きやすい職場づくりに努めている。職員は、代表者に相談しやすいと感じている。また、法人・事業所として、職員は外部研修等に参加しやすく、シフト調整や参加費用の助成が行われているほか、アンガーマネジメントなどをテーマとして、年4回内部研修が行われ、職員のスキルアップやストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	入社時は、法人管理職から、新人研修プログラムとして、介護職に求められる事や、法人として倫理観等を伝えたり、外部から、各テーマに沿った専門講師を招いて現場で勤務時間内に受講出来るよう配慮している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	現場環境は、利用者もスタッフも安心できるような整備を心がけ、職員一人一人の自己評価・管理者評価をもとに、条件に反映。事業所が算定できる最大の(特定)処遇改善加算を算出し、スタッフへの還元出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	伊予地区グループホーム協議会、グループホーム間の総合研修、認知症介護実践者研修、管理者研修、リーダー研修等も費用を会社で負担し、同業者との交流を推奨している。また、市町が主催する連絡会や研修活動では、介護労働安定センターと密に連携を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	ストレス軽減の為、研修開催やアンガーマネジメントの実践等、積極的に行っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	虐待防止委員会があり、1か月に一度資料を使い、虐待に関する勉強会を行っている。	/	/	◎	法人・事業所として、身体拘束委員会が設置され、指針に沿って月1回委員会を実施している。委員会では、職員間で話し合いをするとともに、虐待防止などの内部研修が行われ、職員は不適切なケアなどの行為を理解している。また、不適切な行為を発見した場合には、職員間で注意し合うとともに、必要に応じて、管理者等は注意喚起をしている。さらに、利用者への声かけや接し方には気を配り、職員同士でカバーするとともに、気になる行為がある場合には、職員間で話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ケアカンファレンスでケアプランを見直す際に、日々のケアについて話したり、さらにケアを向上させる案を募っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	勤務中、少しでも仕事感が落ちたときに声を掛け合い、休憩できているか等、気にかけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	1か月に一度、身体拘束廃止委員会を開き、その中で身体拘束についての勉強会を行うこともあった。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	1か月に一度、身体拘束廃止委員会を開き、身体拘束を行っている利用者の記録と照らし合わせながら、解除に向けて動いている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族様からの拘束・施設の要望はないが、もしも今後あった時は、家族様の話と利用者本人の話や状態を照らし合わせ考え、施設での取り組みやケアについて伝えたり、慎重に話し合っていくたい。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	管理者は理解できているが、他のスタッフは理解できていない人もいる。必要性がある方は、情報提供を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要性が有る方がいた場合、本人や家族様から相談・依頼等あれば、社会福祉協議会等へ連絡を行う。法人内のグループホームでは、日常生活支援事業を利用されている方もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	スタッフが十分熟知出来ていないことが多く、連携看護師に頼ることが多い				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的に訓練ができていないため、急変時は慌てることが多い。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを専用の用紙に記入し、それを元にカンファを行なう。スタッフ皆で再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月安全委員会を概ね月1回開催し、スタッフ間で改善策を話し合い、実施している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	家族様への対応等、常に支援について振り返り、マニュアルを見返して対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情発生時には、直ちに管理者・代表者に報告の上、対応を協議。手順に沿って対応し、必要があれば市にも報告できている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情や不満、要望が無いが、定期的に家族様に確認している。また匿名などの苦情があればすぐ検討出来るようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	挨拶をはじめとして、利用者様との会話を大切にしている。利用者様が気軽にスタッフに想いを伝える事が出来るように、声の掛け方、雰囲気、目線等気を配っている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者目線に合わせて会話するとともに、意見や要望を聞くよう努めている。居室には、はがきサイズの用紙に、「ご希望があればご遠慮なくお知らせください」と書かれたメモが置かれ、利用者から希望や要望を伝えやすい工夫をしている。また、年6回介護サービス相談員を受け入れ、事業所に直接言いつらい要望などを利用者から聞き出してもらい、改善や対応に努めている。家族からは、来訪時や電話連絡時を活用して、意見を聞くよう努めている。さらに、管理者が職員一人ひとりの意見や提案を聞くとともに、すぐに現場の業務やサービスに反映するよう掛掛けており、職員からも慕われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族様から相談があった場合、必要な窓口をお伝えするなど、情報共有を図っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は、月に一回、管理者会で事業所の様子を把握する他、事業所に顔を出して、設備等の確認も行っている。また、必要に応じてスタッフ個人とも面談を行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	朝・夕の申し送りで、それぞれの意見を把握し、支援方法について伝達。常に、法人理念と事業所のケア目線を意識し、利用者本位のケアを目指している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	各スタッフが年2回、自己評価を作成・振り返りを行い、上司が評価とコメントを記載している。自己評価をもとに、管理者が個別に面談を行い、サービスの向上、個々のスキルアップに繋げている。				外部評価の自己評価は全ての職員で取り組むとともに、管理者等が取りまとめ、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、ミーティング等で職員へ周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍で、運営推進会議が書面開催となっていることもあり、会議の参加メンバーや家族に、評価結果や目標達成計画などの十分な報告まではできていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議の中で、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所全体で取り組んでいる。新人スタッフも含め、評価を伝え、次回の計画作成に活かせるようにする。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	コロナ禍においては、毎月のお便り、運営推進会議で、評価結果や目標達成計画を紙面で報告している。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議で随時報告している。毎朝の申し送りでも確認するようしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	夜間の火災や地震・津波など、考えられる想定で訓練を行っている。災害はいつ発生するかわからないので、災害が発生した時にすぐに活用できるように備品も常に保管、管理している。				年2回、消防署の協力を得て、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、運営推進会議の開催に合わせて、避難訓練を実施することができていたが、現在は感染対策で、地域住民の協力を得た訓練の実施はできていない。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族の十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子の写真を事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけを再開したりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるよう、周知方法を職員間で検討することを期待したい。今後管理者は、運営推進会議のテーマに災害の備えを取り上げたり、事業所便りを活用して、周知したりすることを予定している。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回以上、日中と夜間での災害に応じた対応ができる想定で訓練をしているが、コロナ感染予防のため、外部からの来客は入れず、限定的な訓練になっている。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	スタッフ全員に、設置している場所を周知している。点検や賞味期限のチェックも行っており、必要があれば交換している。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	例年なら、非常ベルを押すと、近所の方にも自動的に連絡が届くように設定している。訓練にも参加して頂いているが、現在はコロナ感染対策のため参加できていない。	×	○	△		
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	通常なら、消防署の訓練にも参加し、地域の自治会等の訓練にも参加している。現在、コロナウイルス感染対策のため参加できていない。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げていく認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	家族以外への情報発信は、なかなかできていない。運営推進会議のメンバーには、コロナ禍においても取り組みについて情報提供をしている。				市の介護保険課や長寿介護課、地域包括支援センター等とは、問い合わせや連絡に対応するなど、連携を図ることができている。また、伊予地区グループホーム協議会等に参画するとともに、他の事業所とは、運営推進会議の資料を送付するなどの連携も図られている。さらに、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。コロナ禍の収束後には、地域包括支援センターと協力したり、回覧板等を活用して、事業所として、認知症介護などの相談に応じることができることを周知したりするなど、地域のケア拠点として地域から認知されるように、情報発信などの取組みが行われることを期待したい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	相談の窓口を設置している。電話、訪問された相談者に対しても、個々のニーズに合った支援を行っている。			△		△
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	例年は秋祭りをし、地域の方との交流を行っていた。現在、新型コロナウイルス感染防止のため、行事ができていない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	新型コロナウイルス感染対策のため、ここ数年は交流を行っていない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	引き続き新型コロナウイルスの感染防止のため、行事や運営推進会議も顔を合わせての実施はできていない。今後状況が変われば、可能な限り開催できればと考えている。					○

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	KJ383871000281
事業所名 (ユニット名)	ユニット いよ B 棟
記入者(管理者) 氏名	武智 美知子
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 20 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>悔いの残らないお話をさせて頂きます。</p> <p>ケア理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔らかな言葉 ・温かい雰囲気 ・安心できる居場所 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①利用者様・職員の体調を管理し、感染予防を徹底して、感染を防ぐ。 ・3密を避ける。・定期的な消毒・換気・職員の行動自粛・感染予防についての研修に参加。 結果・・・感染予防の為に、できる範囲の事を取り組んできた。常に医療連携看護師他と連絡を取り合い、職員がコロナ感染した場合も利用者に感染させることはなかった。その都度、資料・オンライン・インターネット他に勉強したことを、職員に伝え情報把握・情報の共有に努めてきた。</p> <p>②日常的に外出の支援を行い、気分転換を図る。 ・花見や ドライブに出掛ける。・気候が良くなれば、自然を感じたり、外出の機会を可能な範囲で作る。・3階の屋上へ上がり、日光浴を行う。 結果・・・毎年恒例の五色浜での花見は、ほとんど全員参加できた。コロナ禍という事もあり、ドライブはコスモス畑・畑海方面で回数は少ない。3階の屋上へは、可能な範囲で上がり、気分転換や日光浴に努めてきた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から近く、沿岸部から近い場所に立地する事業所には、母体クリニックが併設されているほか、屋上から五色浜の松並木や瀬戸内海を一望することができる。コロナ禍において、事業所には面会や外出の制限が設けられているが、感染状況を見計らいつつ、五色浜公園や近隣のコスモス畑へ花見に出かけたり、屋上に出て、海を眺めながら外気浴や飼っている犬と触れ合ったり、季節の旬の野菜の世話をするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、ガラス越しやパーテーション越しの家族との面会に対応するとともに、タブレットを活用して、オンラインでの面会に対応することもある。職員は、事業所理念を念頭に置き、利用者目線に合わせて、明るく温かい言葉づかいで会話することを心がけ、穏やかで安心できる居場所に繋がっている。管理者は、職員に対して明るく声をかけ、支援に対する職員の提案を積極的に取り入れることで、優しい気持ちを持ちながら、利用者と向き合うことができるよう努めている。事業所では犬や亀、メダカが飼育され、利用者にも癒しや楽しみのある生活にも繋がっている。さらに、ミーティングなどに職員が参加しやすいように、オンライン機能を活用して参加できるよう工夫が行われ、全ての職員が参加して利用者の暮らしの様子を振り返りができるように努めたり、看取り支援の後には、支援の振り返りと職員のグリーフケアに取り組んだりするなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。加えて、管理者を中心に、全ての職員が一丸となり、心ある支援のもとで、利用者笑顔あふれる時間が多く見られる。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I.その人らしい暮らしを支える										
(1)ケアマネジメント										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人・家族の声をしっかりと聞き、希望や意向を把握できるようにしている。また、面会時でも家族に様子を伝えている。定期的に確認している。	○	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から思いや意向を聞き取りをするとともに、意識して大事にしたいことや大切にしている物を見落とさないよう努めている。また、利用者毎に担当職員を配置して、細やかな視点で利用者の思いなどを把握する体制を整えている。さらに、利用者毎の情報共有ノートが作成され、新たに把握した意向は一人ひとりのノートに詳しく記録を残すとともに、職員間で共有をしている。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族から、若い頃・元氣な頃の生活歴を聞いて、情報を把握している。スタッフ間で情報を共有し、考えをまとめるようにしている。	/	/	/		
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	入居時や面会時など、家族とのコミュニケーションを大切にしている。入居前の生活歴や趣味を大切にしている。	/	/	/		
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	これまでの生活歴や趣味をお聞きしたり、会話の中から発見した事をアセスメントにまとめていく。アセスメントの更新もやっている。	/	/	/		
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉だけでなく、動きや様子、表情にも注意し、隠れたニーズに気づけるよう注意している。職員間で話し合いを大切にしている。	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の面談から、本人・家族・ケアマネ等に生活歴や趣味嗜好をお聞きしている。お聞きしたことをアセスメントにまとめて、各スタッフに確認してもらっている。入居後も、本人や家族から関わりの中で、お聞きしている。	/	/	◎	入居前に、管理者が病院や自宅などを訪問して、利用者や家族と面談を行い、基本情報や生活歴、暮らしの現状などの聞き取りをしている。病院から入居する場合には、病院の地域連携室の担当者から利用者の生活状況や入院までの経緯などの聞き取りやサマリーなどの提供を受けている。また、他施設や自宅から入居する場合には、施設や介護サービス事業所の関係者、介護支援専門員から、利用者の様子や現状などの情報を聞くこともある。さらに、収集した情報は、利用者一人ひとりの情報共有ノートにまとめて、入居前にユニットの職員間で共有をしている。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の関わりを通して、出来る事、出来る事を見極め、本人や家族の意向も踏まえて、生活に取り入れ、希望者には生活リハビリの提案も行っている。	/	/	/		
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	利用者それぞれ、生活リズムに違いも見られるため、可能な範囲で、それぞれのリズムを尊重し、他者に合わせるどころかメリハリをつけるよう注意している。	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントだけでなく、日々の関わりの中から出てくる新しい発見も、申し送りやケアカンファレンス時にスタッフ間で共有して暮らしの中に取り入れる事を考えている。	/	/	○	利用者一人ひとりの情報共有ノートがあり、日々の利用者の様子のほか、職員の気づいた変化や発見したことを記載する生活面の欄を設け、得られた情報を活用しながら、職員間で利用者がより良く暮らすための検討をしている。また、日頃から管理者等は、全ての職員が利用者の些細な変化を見逃さないよう意識づけをしている。	
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	本人・家族に意向を確認しながら、時にはスタッフからも提案を行って、本人らしさを感じられるよう配慮している。コミュニケーションを大切にしている。	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	普段の生活の様子を元に、本人や家族の希望を踏まえたアセスメントを行い、職員間でのカンファレンスで課題を確認している。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師などの関係者の指示やアドバイスを踏まえて、アセスメント情報や得られた情報をもとに、カンファレンスの中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者毎の担当職員が、日々の様子が記録された情報共有ノートなどの確認を行い、利用者の現状を把握していることあり、カンファレンスの際には、必ず意見を伝えるとともに、参加できない職員には、事前に気づきなどのメモを提出してもらっている。さらに、利用者や家族の意見が反映された計画となるよう努めている。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	心身の状態に関係なく、その人らしさを少しでも見出せるように検討している。本人の声を大切にしている。可能な範囲で改善し、良い暮らしとなるよう努めている。	/	○	○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人・家族の思い、普段の生活の様子やADL向上へ向けた提案、好きな事や興味のある事、様々な事に目を向けながら優先順位も検討して、プラン作成をしている。	/	/	/		
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	たとえばきりになったり、終末期に入っても、その人が望む生活や、家族との関わり・時間・繋がりを大切にもらえるようなプランでサポートする事を心がけている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	地域の人たちとの協力体制は、なかなかいつも実現は出来ないが、コロナ禍前は、運営推進会議や、秋祭り、運動会等において、交流する機会を作れていた。				個別の介護記録の様式に、計画の内容が転記され、職員は計画内容に沿って、日々のサービスの実施の有無などが確認できるようになっている。また、利用者毎の担当職員を中心に、介護記録や個別の情報共有ノートに、利用者の状態の変化や言動などの詳細な記録が残されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的なケアカンファレンス時に実施状況話し合い、確認をし、今後の計画・支援内容に繋げている。利用者様のケアプランに対し、担当者がモニタリング票を作成し、プランに対する振り返りを行っている。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎	半年毎に、アセスメント更新し、日勤スタッフがカンファレンスに参加し、プランを見直している。当日参加できないスタッフにも会議録やメモ書き等で、気づきや変更点を伝えている。			◎	入居後、初回の介護計画は、3か月で見直しをするほか、それ以降は、6か月に1回を基本として見直しをしている。新たな利用者や家族の要望のほか、変化がない場合にも、利用者毎の担当職員が介護記録や個別の情報共有ノートなどの情報をもとに、月1回モニタリングを行い、利用者の現状を確認するとともに、ケアカンファレンスの中で報告し、職員間の共有と支援の振り返りに繋げている。また、利用者の状態が変化した場合には、必ず家族への報告と医師への相談を行い、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者他が、モニタリングを行い、現状確認をしている。気づき他、モニタリング票に記載している。このモニタリング票を確認し、ケアプランを作成している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院他、状態の変化が生じた場合は、家族に報告しながら新たな計画を作成している。出来上がった計画は、ご家族に確認頂き、署名頂いている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月1回、スタッフ会議を開き、問題を検討・解決している。緊急案件に関しては、朝のミーティングで話し合っている。			◎	月1回ミーティングを実施して、職員間で話し合いをしている。会議に、多くの職員が参加できるように、開催日時を事前に決めて周知するとともに、開催日に出動していない職員も、オンライン機能を活用して、会議に参加できるような体制を整えている。また、緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で必ずミーティングを実施するとともに、翌日に再度ミーティングを行い、参加していない職員にも経過報告を行い、伝達に漏れがないよう努めている。さらに、終了後には会議録の作成を行い、参加していない職員には確認してもらうとともに、職員はいつでも記録を確認できるようになっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	テーブルを囲み、午後の落ち着いた時間に会議を開いている。1人1回は発言する機会を作っている。時間のない時は、朝の申し送り時等を使って伝え、活発な意見ができるようにしている。			○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、日勤スタッフのみで会議をしている。グループホーム外では開催できず、新しく決まったことは、情報共有ノートに記載している。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎朝、始業時に日勤者全員が事務所又は事務所横に集合し、当日のリーダーが申し送り事項を読み上げる等、重要な情報も伝達・確認している。午後からの出勤者にもリーダーが必要事項を伝えている。	○		◎	申し送りノートを活用して、申し送りが行われ、出勤時に職員は必ず確認をしている。また、日々の朝礼時には、伝達事項等の再確認が行われ、リーダーが申し送りノートの伝達事項を読み上げるなど、職員間で伝達漏れがないよう工夫されている。さらに、つぶやきノートがあり、職員は自由に気になることなどを記載できるようになっている。

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	主張の出来る利用者については、可能な範囲で行うようになっているが、出来ない利用者もいる為、全員とは言えない。努力はしている。				入浴時の着替えや受診時の洋服、おやつ、飲み物など、日常生活の様々な場面で、職員は利用者を選択してもらい、自己決定できるよう支援している。また、利用者が輝いていた時代のことを思い出しながら、楽しみのある生活が送れるように、職員は利用者一人ひとりの趣味や特技、以前の職業、家族のことなどを把握して、好きな会話などを取り入れた支援が行われている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定の出来る利用者には、選んで頂いているが、自己決定の困難な利用者もいる。視線や表情他にて、職員が支援しながら、想いをくみ取っている。			○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のベースや習慣は尊重している。出来るだけ、ゆっくりゆったり過ごしていただけるようにしている。食事や入浴時間も利用者のベースに合わせて、1対1で対応し、負担のかからないよう介助を行っている。			○	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者を変えた会話は大切にしており、笑顔が多く見られるような会話の内容、雰囲気作りをしている。全員の利用者と、毎日コミュニケーションをとっている。			○	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	利用者の表情やちょっとした反応を感じ取りながら、温かい雰囲気の中で過ごす事が出来るようにしている。利用者様を人生の先輩として尊敬し、支援している。			○	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	職員は理念に沿って関わり、新人職員には職員研修プログラムにより、利用者を尊重して支援する事を学ぶ時間を作っている。気になる言動をする職員には、その都度注意し、接遇に気を付けている。	○	○	◎	事業所のケア理念の一つに、「柔らかい言葉」を掲げて、職員は意識した声かけをするとともに、定期的に、利用者尊重する関わり方などの内部研修が行われている。また、薬を塗る際には、別室で対応したり、周りの利用者にも気づかれないよう、さりげない声かけをしてトイレ誘導をしたりするなど、利用者の羞恥心に配慮した支援が行われている。さらに、居室へ入室する際には、ノックと声かけをしてから入室するとともに、退出時には、「〇〇さん、用事があつたら言ってくださいね。また来ます」などと伝えている。加えて、不在時にも、事前に利用者様に、「〇〇をしますが、私がしていいですか」などの声をかけて、確認の上で入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴介助や排泄介助時、バスタオルや膝掛けを使用している。車いす使用時は、カーテンを閉めてプライバシーに配慮している。不安のないように配慮している。			○	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室時は、必ずノックをしたり、ノックだけでは分からない利用者には、ノックと声かけの両方を行っている。常に、笑顔で接し温かい雰囲気や接することを大切にしている。			◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に、個人情報遵守するよう新人職員への職員研修プログラムでも組み込み、予防に取り組んでいる。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者には、洗濯たたみ、お盆拭き、新聞折りをさせていただいたり、昔話をさせていただいたり、職員が知らない事を教えていただいている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格を把握して、行動や表情などの観察を行い、日々の生活の中でストレスを溜めていないかなどの確認をしている。不快な利用者の気持ちに気づいた場合には、職員は配席などを考慮したり、事業所の屋上に出て気分転換を図ったりするなど、未然のトラブル防止に努めている。また、利用者同士が言い合いになった場合には、他の利用者が間を取り持つことで、利用者の気持ちが和むこともある。さらに、利用者同士が励まし合ったり、車いすを押すのを手伝ったりすることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の繋がりを大切に、同年代だからこそ分り合える事に注目して、スムーズな掛け合いが出来るようサポートしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員は出勤した際、必ず利用者全員に声をかけている。また、利用者同士のちょっとしたズレでの口論がないよう間に入ったり、トラブルが起きないように席の配置にも配慮している。又、孤立しないように、職員が間に入って良い関係作りを支援している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの考えや想いを大切に、必要な場合はサポートに入っている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	家族構成家族構成・生活歴・趣味や好きなことを把握しておりそれぞれの人間関係を大切にしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍のため外出はできなくなってきている。ボランティアも少なくなってきている。傾聴ボランティアも行っていが中止になっている。介護相談員の受け入れあり。2ヶ月に1回の訪問となっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ禍のため、外出はできていないが、定期的な駐車場、お茶会(かき氷・お菓子)をして気分転換が出来る機会を作っている。3階に行く屋上があり、時候の良い時を選んで、日光浴他行っている。時々、3階のデイケアの職員にも声をかけてもらっている。	△	×	△	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられ、外出できる機会が激減している。感染状況を見計らいながら、五色浜公園へお花見に出かけたり、近隣のコスモス畑へ出かけて、花を鑑賞したりするなど、季節を感じられるような外出支援が行われている。日々の外出支援はできておらず、事業所では屋上に出て、海を眺めながら外気浴をしたり、飼っている犬と触れ合ったり、季節の旬の野菜を植えて、水やりや草引きなどの世話をするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。コロナ禍の収束後には、利用者の要望に応じた外出支援が行われることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍のため、地域の人との関わりは持っていないが地域運営推進会議をお手紙で行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	朝のミーティングや外部研修を通して認知症の理解を深め良い点や改善点を共有して持つようになっている。	/	/	/	職員は外部研修等で、利用者の認知症状などを学び、理解をしている。また、日々の健康体操やストレッチのほか、洗濯物たたみや自分でトイレに行くなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、入浴時の洗身や食事など、利用者ができことやできそうなことは自分でしてもらい、職員は見守りや、できない部分のサポートをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の日常生活環境や今の状態を把握するように努めている。心身の状態や症状から認知症の症状に関連していないか観察する意識を持って対応している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	重度の利用者には難しいが可能な利用者には洗濯たたみやお盆拭き・新聞折り等の役割を働めている。季節の花を育てていただいたり、行事の準備も可能な範囲で手伝っていただいている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	アセスメントをもとに利用者の生活歴を把握して、利用者が自分らしく楽しんで活躍できるように努めている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭き、テーブル拭きなど、職員は利用者一人ひとりに役割を担ってもらい、手伝ってもらった場合には、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を伝えている。新聞を置くことを日課としている利用者もあり、いつも喜んで行ってくれている。また、カラオケが好きな利用者が、「〇ページを今から歌います」などのリーダーシップを発揮する場面も見られる。中には、玉ねぎやじゃがいもの皮むき、食後のお盆拭きなどの役割を担っている利用者もいる。さらに、職員は利用者を支えながら、穏やかに楽しみのある生活が送れるような支援に努めており、事業所内には利用者や職員の明るい笑顔が見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	利用者とのコミュニケーションを取りながら、発語を促し穏やかに過ごしてもらっている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者との会話や行動から好みを把握し、好みの服を着ていただいている。また、契約時にご家族様より話を聞いている。おしゃれした時は、「素敵！」と話している。				起床時に、自分で着がえて、鏡を使用して、整容を整えることのできる利用者もいる。男性利用者は、電気シェイバーを使用して髭剃りを行い、職員は剃り残しなどのサポートをしている。また、服装の乱れや汚れが見られた場合には、職員がさりげなくフォローするとともに、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。利用者の食べこぼしが見られた場合には、職員がさりげなく拾ったり、口の周りをきれいに拭きとったりしている。さらに、履物などの準備は家族に依頼しているものの、配慮が必要な家族には、事業所で買い物支援などを代行する場合もある。加えて、重度の利用者には、家族からの情報をもとに、訪問看護師等に協力してもらい、整容を整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人やご家族様と相談している。必要なものはご家族様に連絡し持ってきていただいたり、スタッフが代わりに購入している。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	利用者との関わりの中で利用者の意思を尊重し、相談、配慮している。ご家族様とも連絡をとるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	新型コロナ感染防止のため外出や行事等は控えているが屋内で季節に合わせた服装にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さり気なく洋服の乱れを直したり、洗面所に一緒に行き一緒に整えたり、居室に誘導して着替えを促している。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人・家族様と相談した上で、大半は提携している美容室に依頼している。元々馴染みの美容室に行かれていた方もおられるが、コロナの感染予防のために外出を控えていただいている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	生活歴や家族からの情報をもとに、本人が好まれるであろう物をスタッフ・家族で話し合い、共有している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	楽しんで食事をしてもらえるように、見た目にも工夫したり、食器もその人にあった物を使用している。				事業所では、業者の宅配サービスを利用して、栄養バランスの取れた献立の食材が配達され、利用者に野菜の皮むきやお盆拭き、テーブル拭きなどを手伝ってもらいながら、一括してB棟のキッチンで職員が調理をしている。職員は利用者から、好きなメニューや嫌いな物などの聞き取りを行い、アレルギーなどを含めて食べられない食材がある場合には、業者に伝えて代替の食材を用意してもらっている。行事食の特別メニューを業者に用意してもらうこともある。栄養バランスは、法人の栄養士に相談するとともに、要望や相談結果に合わせて、食事の担当職員から業者に伝えて、献立などの調整に対応してもらうこともできている。使用する食器は、入居時に自宅から持参してもらい、馴染みの物を使い続けることもできるが、利用者の状態に応じて、事業所で用意した使いやすい物を使用することもできる。食事の際に、職員は利用者と同じ食事を摂ることもできているが、感染対策で見守りやサポートを行い、時間をずらして、別室で食事をしている。また、重度の利用者には、職員が食事のメニューを伝えて、少しでも食事が楽しい時間となるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食材などは外部から入れてもらっている。調理できる利用者様は少ない。感染予防のために、玉ねぎの皮むき、じゃが芋の皮取り他の下準備の一緒にやっている。食べ終わった後、お盆を拭いてもらっている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	現在はコロナ感染防止のため出来ていないが、利用者の今後は希望をもっと入れたい。簡単な下準備のみ、力を発揮していただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	スタッフが把握しており、対応できている。職員全員で、情報を共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	外部へ発注しているが、利用者が食べやすい物を提供してもらっている。年に数回、担当者会議があり、自分達の要望を伝えることができ、改善している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	見た目や食べやすい様に盛り付けしたり、食器にも個々に合わせた物で提供している。声かけ美味しく食べていただけるようにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	その人にあった物を使用している。床に落とすと割れて危険な場合は、その都度プラスチックの容器への変更も検討している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	介助をする利用者が多いため一緒に食べられないが、声かけ、見守りし食事を楽しんでもらっている。ティッシュを置き、いつでも使えるようにしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その人に合った食事を提供し、声かけし何を食べているかを伝えながら食べてもらっている。あせらず、音楽等を聴いていただきながら、ゆったりとした雰囲気大切にしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	利用者一人ひとりに合った食分量、水分量など確保できるよう支援している。毎日、トータル量を記載している。				
		k	食分量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医に相談し、その人に合った栄養補助食品などを提供している。体重測定も月1回行い、体重の増減に気をつけている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外部業者の献立を利用しており、定期的に意見交換会などがあるが、今はコロナのため中止となっている。今後は再び意見交換会も開きたい。職員間では、意見を聞く機会はある。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理担当のスタッフが、感染防止委員のアドバイスを受けながら対応している。日頃から、清潔・感染予防を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	スタッフ間で確認しながら、口腔ケアを実施している。1日3回、毎食後必ずその利用者にあった口腔ケアを行っている。	/	/	/	歯科医等から、指示やアドバイスをもらい、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、口腔ケアマネジメントの計画を作成し、事業所では、口腔ケアを重視した支援に取り組んでいる。さらに、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、見守りやサポートをしている。加えて、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、職員は全ての利用者の口腔内を確認するとともに、悩みや異常などの細やかな聞き取りをしている。定期的に、利用者は歯科医の訪問診療や往診を受けることもできている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的な歯科の訪問診療や、往診を受けることができ、必要時、電話にて問い合わせを行い、確認をしている。情報の共有に努めている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療の時に、アドバイスをいただくが、最近は定期的な訪問診療は少ないが、必要時連絡のとれる体制をとっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後洗浄し、夕食後はポリドントに浸け置きしている。義歯の状態確認を常に行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	出来る方には声かけし、自分で行って頂くようにしている。状態によって口腔用スポンジ等を使用し、清潔を保てるようにしている。利用者様に、悩みや不安な点はないか、定期的確認している。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	パット内に排泄があっても、利用者の方が自信を失わないよう声かけている。脚力低下を防ぐために、時間を配慮したり、利用者の表情を見たりして、声かけ、トイレでの排泄を促している。	/	/	/	事業所では、トイレでの排泄を基本と考えて、支援をしている。職員は、利用者一人ひとりの排泄の状況を記録するとともに、個々の排泄パターンの把握や共有をして、さりげない声かけやトイレ誘導が行われ、利用者の失敗が減ることで、利用者の自信にも繋がっている。中には、職員間で適切な排泄用品の使用を話し合うことで、パットの大きさが変更となったり、紙パンツなどの排泄用品の使用頻度が減少した利用者もいる。また、利用者の排泄用品を使用する違和感が取り除かれ、費用面での負担軽減などにも繋がっており、家族から喜ばれている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	必ず排便チェックを行い、便秘薬で調整している。看護師から聞いており、気をつけている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	利用者の方それぞれの時間をみて、トイレの声かけを行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	1人1人の状態に合ったトイレ誘導、介助を行っている。パットは時間帯や排泄頻度から、スタッフ間で相談を行い調整している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレが混み合う時があり、スムーズにトイレに行けるようにスタッフで話し合っている。食事量や水分量など記録している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間や利用者の方の様子や状況を見ながら、声かけ誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日勤帯、夜勤帯で使用する紙パンツ・パッドはスタッフで話し合いながら調節している。日中は、なるべくトイレでの排泄ができるように支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	その時々状態、状況に応じて、スタッフ間で相談して使用している。定期的に見直しを行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	レクリエーションで体操したり、水分をしっかり摂っていただけという声かけている。状況によって、アクエリアスを飲んでいただく。薬になるべく頼らない取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者様から希望を聞いて、入浴順番等も考えている。入浴前には、排泄を済ませ、着替え等も一緒に選んでいる。浴室や脱衣所の温度も、その利用者に合わせて温度調節している。ゆったりと過ごしていただく。	◎	/	○	週2回を基本として、利用者は午前時間帯を中心に、入浴をすることができる。また、利用者の希望に応じて、入浴回数の増や湯の温度、入浴順、湯船に浸かる時間など、職員は可能な範囲で、柔軟に対応をしている。さらに、入浴を拒む利用者には、無理強いをせず、時間帯や日にちを変えた声かけなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ずつ順番に、職員とのコミュニケーションを大切にしながら、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	着替え・浴槽への出入り・洗身他、本人の力を活かして、できることをゆっくりとして頂き、達成感を大切にしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	決して無理強いせず、「また今度一緒に入りましょうね。」と声かけし、安心していただいている。その原因や理由をさりげなくお聞きし、理解するようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日2回バイタル測定をしており、異常の有無を確認するとともに、医療連携シートを見たり、看護師や夜勤者に状態を確認してから、入浴を開始している。入浴後も水分補給に努めて頂きながら、状態確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の記録に毎日睡眠の様子を記入しており、職員全員が把握している。眠剤を飲む利用者も把握している。	/	/	/	事業所では、日中に健康体操や歌謡曲に合せたストレッチをしたり、天気の良い日は屋上で日光浴をしたりするなど、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、睡眠導入剤を使用する場合には、医師に相談を行い、服薬の開始や継続、減薬などの報告をするとともに、指示に沿った適切な薬の服用が行われている。事業所では、現在ほとんどの利用者が、夜間に良眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	午前中の健康体操やレクリエーション・生活ハビリティを通して、適度な運動を心がけている。昼寝時間も長く寝すぎないように配慮している。ゆったりと過ごす事も大切。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	毎月2回の訪問診療にて、利用者様の日々の様子・気になる事他医師に伝え、必要時相談している。医師からも、その活動や日中の過ごし方で良いか答えを頂いている。今後も支援内容を検討していきたい。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個室にて、休憩や昼寝が希望時安心してとれるようにしている。個別に時間や過ごし方を配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	○	なかなか自ら電話をしたり、手紙のやり取りができる利用者様は少ないが、本人の想いを家族に伝える事はできるので、本人の希望を大切に支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	利用者様用の便箋や葉書を用意し、手紙や年賀状を書いていただいた事もある。七夕の短冊には、本人に願いたい事を書いてもらった事もある。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自室に電話あり。家族からかかってきて、折り返しかけ直し話すことあった。本人もかけたい時に職員が介助し、電話にて話していた。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人様みせて、字が読めない利用者様には、内容を読んで喜んでいただいている。家族様からの手紙や葉書はいつでも読み返せるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ホーム便りや面会時に、家族に協力・お願いをしている。家族様からの手紙は大切に保管し、その都度お礼の言葉を伝えている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	新型コロナの感染予防の為に、買い物には行けていない。利用者が買い物をして支払いをする事は良い事なので、又落ち着いたら再開したい。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	新型コロナ感染予防の為に、人出の多いスーパーへの外出は控えている。スタッフが希望の品を開き、代行している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現金を所持する事により、落ち着かれる方は少額を持っていただいている。希望を叶えることにより、安心されている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の希望を聞いている。少額を小銭入れに入れられている方もいる。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	利用者様・家族様と話し合い、事務所にて保管している。毎月使用したお金は、レシートを請求書と一緒に同封して家族様にもわかるようにしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	利用者様の希望を聞きながら、個々のニーズに対応し、購入したいと思うが、感染予防の為に人混みに行くことはできない為、職員が代わりに買い物に代っている。	◎	/	○	コロナ禍において、事業所では外出や面会などの制限が設けられ、利用者や家族から出された要望には、状況を考慮しながら、可能な範囲で柔軟な対応をしている。コロナ禍以前は、日用品の買い物などに利用者と一緒に出かけることができていたが、現在は対応できない状況となっている。また、状況に応じて、職員は病院の同行支援などの対応を行い、家族から喜ばれている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	気軽に来訪・面会できる雰囲気をつくっているが、新型コロナの感染予防の為に、その時々で面会の方法を変えて対応している。	○	○	○	母体クリニックのある建物に、事業所は併設しており、近隣住民には馴染みのある建物となっている。玄関入り口に入ったエレベーターホールには、近隣の畑からいただいたコスモスが飾られ、気持ち良く来訪者を迎え入れてくれ、親しみやすい雰囲気が感じられた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節の飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	ホールの壁面に、入居者様と一緒に手作りの作品や塗り絵を飾っている。玄関ホールには、写真ポランテアによる特大サイズの季節の花他他の写真を展示している。テーブルの上にも、季節の花をできるかぎり飾り、季節感を出している。	○	○	○	共用フロアには、大きな模造紙に職員が描いた寅やかぼちゃ、松ぼっくりが飾られているほか、折り紙で作ったふどうやハロウィンの作品が飾られ、利用者や来訪者は、時候や季節を感じられるようになっている。食事などを行う机の上には、職員が作成したパーテーションが置かれ、感染対策を講じている。また、ガーデニングが得意な職員が強みを活かして、トイレを含めて、事業所内の至る場所にコスモスなどの生花や観葉植物などが飾られている。さらに、カメラやメダカが飼育され、利用者は餌やりや鑑賞を楽しんでいる。加えて、建物の屋上にも出ることでもでき、利用者は海の景色が眺められるほか、ネギやプロコリー、春菊、多肉植物など植えられ、利用者は成長を楽しみながら観察をしている。今年は、近隣で花火大会も開催され、利用者は壮大な眺めが見られ、大変喜んでいる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日清掃し、時間を決めて空気の入替え・換気を行っている。光の調節用のカーテンあり。汚物も新聞紙で包み、配慮している。	△	△	△	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	行事や季節に合わせて、飾りの品を置き、テーブルにも季節の花を生けている。レクリエーションでも、「今日は○月、○日、外はとっても暑いです。」と会話の中で工夫している。調理の台所の隣なので、良い香りもしている。	△	△	△	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う馴染みの利用者同士、近くの席に座れるようにしている。居室内で過ごされる時も、時々訪室しながらも、独りになれる居場所作りをしている。	△	△	△	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時に、今まで使用していた机やテレビ・小物等を持ってきていただき、本人が落ち着く雰囲気作りをしている。	○	△	○	居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられている。利用者は使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができる。家族の写真や好きな犬のカレンダーなどを飾り、職員は安らぎのある快適な生活が送れるような空間づくりに努めている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室入口には、了解を得た上で本人の写真や名前を表紙のようにして掲示している。居室やホールにカレンダーや大きく日付が分かるものを掲示し、毎日のレクの時間には今日の日付を皆で確認している。季節を感じられる掲示物を利用者と一緒に作成している。	△	△	○	事業所では、トイレの表示を大きくしたり、居室の入り口に、「○○様のお部屋」と貼り出したりするなど、利用者が認識しやすい工夫が行われている。また、廊下には手すりが設置され、歩行訓練などのリハビリに活用している利用者もいる。さらに、新聞や雑誌などが置かれ、利用者は自由に取れるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	新聞や雑誌、絵本やパズルなどをホールに置き、利用者が好きな時に自由に手に取り見る事が出来るようにしている。時には利用者に声かけを行い、希望も聞いている。	△	△	△	
29	鍵をかけたケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	立地上、交通量の多い道路に面しており、過去何年か前には帰宅願望の利用者様が出ていかれようとする為、入り口を施錠した時も数ヶ月あったが、今は常に開放し、自由にエレベーターホールにも出て行ける環境を整えている。職員と3階の屋上に出て、五色浜の海の景色も楽しむようにしている。(コロナ禍である為、近所に出ていく機会は少ない。)	×	×	△	事業所は道路に面しており、大型トラックなどの交通量が多く、利用者の安全を第一に考えて、1階にある玄関は施錠され、コロナ禍もあり、来訪者にはインターホンで対応している。また、外に出ようとする利用者の様子が見られた場合には、職員は利用者へ声をかけて話しを聞くとともに、一緒に屋上に出て、海の景色を眺めながら、新鮮な空気を吸ってもらい、気持ちを和らげるような対応をしている。
		b	鍵をかけた自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	職員が必ず見守りを行い、利用者様の動きを把握していることで、安心していただいている。外出する際も、必ず職員が付き添っていることを伝えている。現在は車椅子対応の利用者様が多く、ご自分で移動できない利用者様も多い。	△	△	△	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者の入所時にはアセスメントシート(フェイスシート)退院時には要約書(サマリー)などで把握している。変化に応じて医療連携シートで確認している。	△	△	△	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	気が付いた時には職員間で情報共有ができており介護記録やバイタル記録に残していることがあがるが徹底はできていない。意識の統一か記録を書きやすく見やすい記録用紙に改善をするか課題。	△	△	△	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	日勤帯では、医療連携看護師が2人交代で勤務しているため、ちょっとしたことでも気軽に相談できる。看護師も職員も利用者もコミュニケーションを取っており関係が築けている。早期の適切な対応に繋がっている。	△	△	△	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	医療連携シートで、これまでの利用者の状況の把握ができ、状況を踏まえた相談をご家族とも行っている。	◎	△	△	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族や本人の意向を踏まえ、かかりつけ医とも連絡を取り、必要時は家族や本人、かかりつけ医を交えて話し合っている。	△	△	△	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必要時は主治医とのカンファレンスに繋がったり、チームで情報の共有、相談を行っている。家族と連絡を取りながら、本人にとってベストな形を話し合うようにしている。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際には、入院時情報提供書を作成し、入院先との情報を共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医の訪問診療などを通して日頃から情報交換し、入院時には経過などを病院関係者に提供してもらい、指導を受けている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は日々の細かい気づきでも、看護職・連携看護師に報告、相談を行っている。内容により、速やかな受診行動などに繋がっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	各棟に看護職・連携看護師が1名ずつ配置されており、いつでも相談出来る体制がある。また、休日や夜間帯においても電話連絡が速やかに取れるように担当表が作成されており、分かりやすい所に掲示している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	コロナ禍において、連携看護師の指示のもと、バイタルサイン測定を増やす等、異常の早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	利用者の服薬状況は、バイタル表や確認ファイル、医療連携シート等で把握するようにしているが、追加処方や中止等の変更が多く、理解が追いつかない状況がある。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	△	薬局の居宅管理指導、連携看護師による1日分ごとの配薬・服薬時の職員2名によるダブルチェックにより、指示通り介助しているが、利用者によっては口からこぼれ落ちたりして、薬が床に落ちていた状況が何度かあり、確実に嚥下するまで見守りが必要である。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	下剤は服用後の排便状況(回数・形状・利用者の苦痛等)について記録に残し、効果の状況をアセスメントし、連携看護師に相談している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に重度化した場合における(看取り)指針を説明、終末期における支援方法についても説明し、状態に変化があれば、家族や主治医を交えてカンファレンスし、確認している。				法人・事業所として、「重度化した場合における(看取り)指針」が設けられ、入居時に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。協力医療機関との24時間体制の連携が確保され、母体クリニックが併設されていることもあり、利用者や家族には安心感がある。また、夜勤の職員も不安を抱えることなく、看取り介護等に対応することができる。さらに、利用者が重度化した場合には、家族や医師、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。今年(令和4年)に入り、事業所では2名の看取り介護の経験をするともに、今回の看取り後には、看護師が主導で、職員の看取りの振り返りが行われ、次回の支援に繋がれるよう取り組んでいる。加えて、振り返りでは、看取りをした利用者との思い出や望んでいた最期、看取りの不安などを全ての職員に記載して提出してもらい、集計した結果を話し合い、家族へ伝えるなど、職員のスキルアップにも繋げている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化、終末期のあり方について、本人・家族と話し合い、職員とカンファレンスを行い、方針を共有し、かかりつけ医からも家族に説明してもらい、相互の方針を確認、チームでも共有している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態変化について情報を共有し、専門職である看護師への相談や主治医からの病状説明を確認した上で、判断する。職員からの心配や不安の声があれば、思いを聞き対策を検討している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時、入院時、終末期において重度化した場合の指針と一緒に出来ること、出来ないことについて説明し、了解を頂くようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人、家族の想いに寄り添い主治医に伝え、相談出来る体制を構築している。今後予測される状態を共有することで安心してケアすることが出来ている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の想いや葛藤について日頃から聞き取りし寄り添い、信頼関係を築けるよう努力している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	新型コロナウイルス感染症も含め、研修・実習を実施。嘔吐時や発熱等の症状出現時の居室対応などが実践できるようにし、予防への意識を高めている。新しい情報あれば、全員のラインにて知らせ、情報共有している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症発生時の対応マニュアルを作成し、手順もポスターにして掲示。必要物品の確認や準備等、研修・実習ができた。今後も定期的に行う。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	県内で				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時に、上着を階下で脱衣し、体調確認表への記入、検温・手洗いうがいの励行、アルコール消毒液の設置を徹底。携帯アルコールを配布。面会者にも体調確認表に記載依頼し、面会も飛散防止シートを挟んで行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	生活動作を共にし、同じイベントを同じ目線で過ごすなど、日々の関りの中で、信頼関係を築いている。	/	/	/	コロナ禍以前は、七夕や敬老会などに参加してもらい、家族同士が交流できる機会が設けられていたが、現在は開催を自粛している。管理者は、「新型コロナウイルス感染症の収束を見計らいながら、家族が参加できる行事を再開させたい」と考えている。また、ガラス越しやパーテーション越しの家族との面会に対応するとともに、タブレットを活用して、オンラインでの面会に対応することもある。月1回発行している「ユニットいよ便り」には、お花見やコスモス畑の見学、七夕、100歳のお祝いなど行事が写真入りで報告されているほか、職員の人事異動や入退職の情報の掲載を行うなど、家族への周知が図られている。さらに、職員は訪問時や電話連絡時、手紙を活用して、家族に利用者の近況を伝えている。事業所では、LINEのSNS機能を活用して、写真の送付などの連絡を取り合う家族もおり、気軽に連絡や相談を行いやすい環境を整えるとともに、利用者の様子がより家族に伝わるような工夫が行われている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	本人の様子をたびたび伝え、コミュニケーションを大切にしている。また、コロナ禍においても、感染に注意しながら本人との距離を解消できるよう、タブレットや電話、飛散防止シートを用いた面会を実施している。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のホームだよりでは、写真も掲載して、家族様が安心していただけるようにしている。ケアプランや手紙も送付により、状態も伝えていく。家族様が気軽に相談できるような雰囲気作りにも努めている。タブレットを使い、忙しい家族様とも連絡を取り合っている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	コロナ禍ではあるが、家族とのリモート面会の実施や、1階にて玄関のガラス越しでの面会の時間を設け、少しでも今までの家族との関係が続けられるよう支援している。認知面の低下に関しても、できることを伝え接し方の相談にのり、安心していただいている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	毎月送付している「いよ便り」にて報告、電話や面会時にも必要な事をお伝えし、協力いただいている。	◎	/	◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	アセスメント情報をもとに、入居時の契約でリスクを説明し、入居後においても、状態によって起こり得るリスクを説明し、納得している。状態悪化時も、連絡をとり、家族に面会をしていただいている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には、スタッフから様子を伝え、家族には気になる事や希望・想いをお聞きしている。また、タブレットの導入により、さらに気軽にコミュニケーションがとれるようになった。コロナ禍の為、面会時の湯茶・長時間の面会は控えていただいている。家族様の宿はも行っていない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時は、なるべく2名体制で説明を行い、家族が理解しやすいよう説明を心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居になる場合の条件について詳細に説明している。本人希望時もそうだが、事業所側の判断で退居になる場合についても、その条件を詳細に説明している。また、必要時は居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにも相談しながら対応する体制がある。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	定期的に地域運営推進会議を行い、事業所の取り組みや利用者様の行事等を報告している。入居申込み他で来られた方々に、事業所を紹介しながら理解を図っている。	/	○	/	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられ、利用者が地域住民との交流できる機会が激減している。コロナ禍以前は、ボランティアや中学生の職場体験を受け入れたり、利用者と一緒に幼稚園児と交流したり、地域の行事に参加するなどの交流を図ることもできていた。法人・事業所として、町内会に入会し、定期的に回覧板が回ってきている。日頃から、職員は近隣住民に気持ちの良い挨拶を心がけている。今年(令和4年)は、感染状況を見計らいながら介護サービス相談員を受け入れ、利用者の話しを聞いてもらうこともできた。コロナ禍の収束後は、継続されている地域との関係性を活かして、地域の中で利用者が少しでも多くの交流が図れるように、早期に活動が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の方々積極的にあいさつをしている。新型コロナの関係により、地域への活動は控えているが、以前は活発に参加していた。他グループホームの地域運営推進会議にも数名にて参加した。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	少数ではあるが、馴染みの地域の方がおられ、声をかけてくださったり、様子を聞いてくれる方もいる。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の写真ボランティアの方が、3ヶ月に1度くらい、来訪して下さっている。職員も写真を返しに自宅訪問している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	コロナの影響にて最近では来訪をお断りしているが、近所でお会いした際には、一言二言あいさつを交わしながら、お話しをしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナの影響にて最近では中止しているが、縫い物のボランティアの方々の訪問もあった。洋服のほころびを直して下さっていた。今年度、介護相談員2名の定期的な受け入れあり。一緒に笹飾りをしてしながら、話し交流あり。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	2ヶ月に1度、理容室の方2名に散髪や毛染めをしていただいている。他の福祉施設とも交流がある。先日は電気保安協会の方々にスプリンクラー等の点検をしていただいた。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	コロナの影響にて施設での会議は行っていないが、文章で行っており、文章でのお返事が送られてきている。	x	/	△	コロナ禍において、運営推進会議は書面開催が継続している。書面会議では、入居状況や行事報告をまとめた資料を送付するとともに、意見書を会議の参加メンバーに送付して、意見をもらうよう努めている。また、参加メンバーから出された意見と、事業所の対応コメントを記載した議事録を作成して、参加メンバーに再度送付を行い、会議の取組みへの理解促進に繋げている。会議の資料は、一部の家族への送付に留まっており、今後は全ての家族へ案内や資料の送付を行うなど、コロナ禍においても、家族に事業所の様子がより伝わるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	入居状況や行事、研修の報告を行っている。実際の入居者の声や一言も文章に入れたり、写真も添えて、わかりやすいように工夫をしている。議事録の発送も行っている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	x	新型コロナウイルスの影響により、文章(手紙)での発送になっています。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないようお世話させていただきます」という法人の理念のもと、職員全員の投票で決まった、事業所でのケア理念「和かい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所」を利用者の生活に取り入れ、実践・継続できるように、申し送りでも唱和している。	/	/	/	代表者は、定期的に事業所に来訪して、職員や利用者へ優しい声かけをするとともに、年2回職員との個別面談を行い、職員の意見や要望などを聞き、働きやすい職場づくりに努めている。職員は、代表者に相談しやすいと感じている。また、法人・事業所として、職員は外部研修等に参加しやすく、シフト調整や参加費用の助成が行われているほか、アンガーマネジメントなどをテーマとして、年4回内部研修が行われ、職員のスキルアップやストレス軽減に努めている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	面会スペースとなる2Fホールや1Fホールに法人・事業所両方の理念を目に入りやすい場所に掲示し、その都度説明を行っている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員一人一人の専門性の向上、スキルアップが利用者への穏やかな支援に繋がる事から、外部からの研修招致、各職員が研修参加できるよう予算も計上している。	/	/	/	代表者は、定期的に事業所に来訪して、職員や利用者へ優しい声かけをするとともに、年2回職員との個別面談を行い、職員の意見や要望などを聞き、働きやすい職場づくりに努めている。職員は、代表者に相談しやすいと感じている。また、法人・事業所として、職員は外部研修等に参加しやすく、シフト調整や参加費用の助成が行われているほか、アンガーマネジメントなどをテーマとして、年4回内部研修が行われ、職員のスキルアップやストレス軽減に努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	入社時には、法人管理職から、新人研修プログラムとして、介護職に求められる事や、法人としての倫理観等を伝えたり、外部から、各テーマに沿った専門講師を招いて職場で勤務時間内に受講できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職場環境は、利用者も職員も安心できるような整備を心がけ、職員一人一人の自己評価・管理者評価をもとに、条件に反映。事業所が算定できる最大の(特定)処遇改善加算を算定し、職員へ還元できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	伊予地区グループホーム協議会、グループホーム間の相互研修、認知症介護実践者研修、管理者研修、リーダー研修等も費用を会社で負担し、同業者との交流を推奨している。また、市町が主催する連絡会や研修活動では、介護労働安定センターと密に連携を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレス軽減のための研修開催やアンガーマネジメントの実践等、積極的に行っている。病気により休んだ職員の復帰に向けた支援。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	定期的に委員会を開いたり、内部・外部研修を行う事でどんな行為が虐待や不適切なケアにあたるか学んだり、客観的に自身のケアを振り返りスタッフ全員で考える機会を大切に継続して虐待防止に取り組んでいる。研修ごとに報告書を提出し、全員が読み返せるようにしている。	/	/	◎	法人・事業所として、身体拘束委員会が設置され、指針に沿って月1回委員会を実施している。委員会では、職員間で話し合いをするとともに、虐待防止などの内部研修が行われ、職員は不適切なケアなどの行為を理解している。また、不適切な行為を発見した場合には、職員間で話し合うとともに、必要に応じて、管理者等は注意喚起をしている。さらに、利用者への声かけや接し方には気を配り、職員同士でカバーするとともに、気になる行為がある場合には、職員間で話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その日にあった特別な事は、記録に残し、申し送りでも伝える事で、スタッフ全員が共有できるようにしている。全体会議はなかなかもてないの、時間をとって聞いている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	ストレス軽減のための研修開催やアンガーマネジメントの実践等、積極的に行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的に委員会を開いたり、内部・外部研修を行う事でどんな行為が虐待や不適切なケアにあたるか学んだり、客観的に自身のケアを振り返りスタッフ全員で考える機会を大切に継続して虐待防止に取り組んでいる。研修ごとに報告書を提出し、全員が読み返せるようにしている。	/	/	/	身体拘束を希望する家族はないが、毎月の話し合いや家族への報告も行って、拘束廃止に向けて取り組んでいる。仮に今後、要望される家族がおられても、原則禁止についてしっかりと説明を行う。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	現在、車椅子からの転落防止のベルトで固定している方が1名いるが、毎月、積極的に拘束廃止に向けての話し合いをしており、スタッフ全員が身体拘束にあたる事を理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	身体拘束を希望する家族はないが、毎月の話し合いや家族への報告も行って、拘束廃止に向けて取り組んでいる。仮に今後、要望される家族がおられても、原則禁止についてしっかりと説明を行う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	管理者等は理解しているが、他の職員は理解出来ていない人もいる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要性のある方がおられたり、本人や家族から相談・依頼等があれば、社会福祉協議会等へ連絡を行う。法人内のグループホームでは、日常生活自立支援事業を利用されている方もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	急変時のマニュアルを作成し、スタッフに周知し、閲覧できるようにしている。新しいスタッフが多く、周知できていない部分も多く、看護職員にすぐに連絡し、対応してもらっている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護師の人数多い為に対応できる体制が整っている為、全ての職員への訓練は不十分である。今後、実践力を身に付けてもらいたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書の提出により、職員全員に周知し、毎回カンファレンスも開いて改善策を考えている。毎月、安全対策会議も開催できている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	職員全員から出るヒヤリ・ハットをもとに、利用者一人一人のリスクを職員は周知している。重要なことは、情報共有ノートに必ず記載し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	些細な事でも利用者様から出た苦情は情報共有し、全員で解決している。その後もうまくいっているか確認を行い、安心して生活ができるように配慮している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	現在、苦情は寄せられていないが、日頃からコミュニケーションをとりながら、早めに解決できるように心がけている。必要と思われる場合には、市にも相談していく予定。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情や不安な事はないか、定期的に家族に聞いたり、手紙郵送時に確認の言葉をいれている。日頃からの良い関係性づくりに努めている。無記名で投函できるよう、2階の入り口に意見箱を設置し、対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	契約時、意見・要望、苦情を伝えられる事を、わかりやすく話している。契約書類にも明記している。ケアプラン他、お便り発送時にも遠慮なくお知らせくださいと一筆いれている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者と同様合わせて会話するとともに、意見や要望を聞くよう努めている。居室には、はがきサイズの用紙に、「ご希望があればご遠慮なくお知らせください」と書かれたメモが置かれ、利用者から希望や要望を伝えやすい工夫をしている。また、年6回介護サービス相談員を受け入れ、事業所に直接言いつらい要望などを利用者から聞き出して、改善や対応に努めている。家族からは、来訪時や電話連絡時を活用して、意見を聞くよう努めている。さらに、管理者が職員一人ひとりの意見や提案を聞くとともに、すぐに現場の業務やサービスに反映するよう掛けており、職員からも慕われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には説明しているが、長期の入居になってくると、情報提供の機会が少なくなっており、今後は適宜行いたい。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎月1回、管理者会議にて、職員の意見や要望を聞いている。事業所にも顔を出し特に、設備関係業者に伝え改善してくれている。必要時、職員との個別面談も行っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	仕事や朝夕の申し送り時に出た意見や提案を大切にしている。まず実行してみるということも言っている。利用者の意見を大切に、できる範囲で利用者本位の支援をしていくための運営を検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に2回、自己評価を行い、自分の仕事ぶりを振り返っている。目標とそれに対する自己評価を行っている。サービス評価に関しても、振り返る機会をつくっている。				外部評価の自己評価は全ての職員で取り組むとともに、管理者等が取りまとめ、ユニット毎に作成している。サービスの評価結果は、ミーティング等で職員へ周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍で、運営推進会議が書面開催となっていることもあり、会議の参加メンバーや家族に、評価結果や目標達成計画などの十分な報告まではできていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議の中で、サービス評価の意義や目的を伝えたり、参加メンバーや家族に取組み状況のモニターの協力を呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	自己評価の項目を、職員が各自話合いながら、協力して作成。自己評価することにより、課題も明確になってきている。可能な目標達成計画を示し、取り組もうと努力している。必要なことは、職員全体に知らせている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	ほとんど出ていない為、今後は報告を十分に行い、今後の取り組みのモニターをしてもらう予定である。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナの関係もあるが、当事業所において、地域運営推進会議は開催できず、書面でのやりとりとなっている。事業所においても、確認不足だった為、今後の課題とする。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	色々な想定で、訓練を行っている。災害はいつ発生するか分からないので、備品も常に保管している。				年2回、消防署の協力を得て、日中や夜間を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍以前は、運営推進会議の開催に合わせて、避難訓練を実施することができていたが、現在は感染対策で、地域住民の協力を得た訓練の実施はできていない。利用者家族等アンケート結果から、災害への備えに対して、家族の十分な理解が得られていないことが窺えるため、コロナ禍の収束後には、避難訓練の様子を事業所内に掲載したり、家族や運営推進会議の参加メンバーに避難訓練への参加協力を呼びかけを再開したりするなど、家族等への安心安全な取組みが理解してもらえるよう、周知方法を職員間で検討することを期待したい。今後管理者は、運営推進会議のテーマに災害の備えを取り上げたり、事業所便りを活用して、周知したりすることを予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年に2回以上、日中と夜間での想定で訓練をしている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	スタッフ全員に、置いてある場所を周知している。点検や賞味期限のチェックも行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	非常ベルを押すと、近所の方にも自動的に連絡が届くように設定している。訓練にも参加して頂いている。	×	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	消防署の訓練にも参加し、地域の自治会等の訓練にも参加した。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げていく認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ感染予防のために、地域に向けての発信も減り、活動や研修参加も減ってきている。研修はオンライン研修がほとんどだった。人混みを避け、密にならないようにと過ごしてきた。各自学んだ事を、一人でも多くの方々に広めていけるように伝えているので、一人一人できることから進めていきたい。				市の介護保険課や長寿介護課、地域包括支援センター等とは、問い合わせや連絡に対応するなど、連携を図ることができている。また、伊予地区グループホーム協議会等に参画するとともに、他の事業所とは、運営推進会議の資料を送付するなどの連携も図られている。さらに、地域住民から相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。コロナ禍の収束後には、地域包括支援センターと協力したり、回覧板等を活用して、事業所として、認知症介護などの相談に応じることができることを周知したりするなど、地域のケア拠点として地域から認知されるように、情報発信などの取組みが行われることを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の元老人会長様からの電話あり。話をし、わかる範囲にてお伝えした。家族からの相談にも応じている。関係づくりを大切にしている。			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ感染予防のために、面会も最小限としており、事業所は開放できていない。コロナ関係が落ち着けば、少しでもできる範囲で地域の方が集まる場所として開放していきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	研修事業の実習生があれば、受け入れに協力できる体制は整っている。今後も希望者があれば、積極的に受け入れたい。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	他グループホームの地域運営推進会議に参加している。伊予市主催の研修開会に参加。介護相談員受け入れの集会にも参加し、2名の介護相談員の受け入れしている。(現在コロナ禍により、7月1回のみとなっている。)				